

ITOSUGI

いとすぎの丘



卒業式



入学式

国際交流活動

Pick Up



昨年12月1日(土)から9日(日)に、タイ赤十字看護大学学生2名を受け入れました。授業の聴講や赤十字施設の見学を行いました。また「Thai&Japanese Afternoon」を企画し、相互交流を行うなど貴重な機会となりました。



災害救護演習

- 学長の言葉
- 大学行事
卒業式、入学式
- 大学の活動
入試結果
出前公開講座
災害救護演習Ⅱ
RCT☆LINK
総務大臣賞受賞
サークル紹介
- Information

「令和の時代が始まる」

学長 鎌倉 やよい



平成天皇の御退位と新天皇の御即位に伴い、平成の時代が静かに終わりを告げ、2019年5月1日から令和の時代となりました。振り返ると、平成の時代は昭和天皇の崩御によって始まりましたので、喪に服すなかで静かに始まったように思います。令和への改元は、平成天皇への感謝とねぎらいに包まれて進み、202年ぶりの御退位の儀式が粛々と進行しているといった感がありました。

平成の時代、日本は平和が続きましたが、一方で災害の時代ともいわれ、阪神・淡路大震災、東日本大震災、豪雨災害など、大きな被害があり多くの人の命が失われました。自然の力を前にして無力感に打ちのめされますが、それを乗り越えて、災害看護学として確立する努力がなされています。そんな、力強さが平成の時代であったように思います。

西暦は数字であるが、和暦にはその時代への願いが込められていると言われています。令和は、万葉集に基づいているとされ、美しい調和との意味であると説明されています。令和の時代はどのような時代となるのでしょうか。そして、私たちはどのような時代を創ろうとしているのでしょうか。

日本は、世界に類を見ない速さで高齢化率が増加しています。この超高齢社会の進行から、在宅医療の推進の必要性が高まり、一方では医療技術の発展などにより、看護師の役割拡大が求められています。2014年には保健師助産師看護師法が改正され、特定行為研修を受けることによって、医師の包括的指示の下に特定

の医行為ができるようになりました。

「医療を受ける人々の生活を援助する」ために、生活援助の技術と診療補助の技術を駆使できることが看護の特長とも言えます。看護関係の認定制度の一つとして、認定看護師制度がありますが、ここに特定行為研修を組み込んで、広く在宅医療の要請にも応えることができるように改正が進んでいます。

看護学はこの50年間に大きな発展をとげてきました。他の学問分野が100年をかけて達成してきたことを、看護学は先人たちの努力によって50年で走ってきました。ようやく看護診断までは体系化されたものの、方法論の標準化には至っていないのが現状です。看護学は実践の科学であると言ってきましたが、実践の科学であるためには、必然的な結果を導く、標準化された看護方法論を整備することが必要です。

この方法論は、特定の問題を解決するという目標に向かって構成される一連の「プログラム」として開発されることが期待されます。これらの看護ケアプログラムは、複数の実験研究によって再現性のある効果が検証されて初めて標準化することができます。これらを体系化することによって、「ケア・サイエンス」が構築されると考えています。

看護界はこれらに取り組み、ナーシング・ケア・サイエンスとして確立するための動きが始まりました。一つの課題に対して、これまでに数多く報告された研究成果のエビデンスを確認して、最善の方法論を確定することを目指し、看護系の学会からもガイドラインが出されるようになりました。

看護のプロフェッショナルとしての将来は広く、大きな可能性が広がっています。令和の時代、看護の将来を見渡して、皆さんの夢を描いてください。明確な目標を持つこと、どうすべきか自分の考えを表現すること、地道な努力を重ねること、「今の自分を超えていく」意志の強さが皆さんの夢を実現する鍵となります。

卒業・修了 おめでとうございます

研究科長 山田 聡子

学部卒業生の皆さん、大学院修了生のみなさん、卒業・修了おめでとうございます。

入学の日を覚えていらっしゃるでしょうか。大学生・大学院生としての新しい生活に期待と不安が入り混じった気持ちで入学式に臨まれたと思います。楽しかったこと、苦しかったこと、様々な思い出が詰まった学生生活だったことでしょう。

学部生の皆さんは、本学で学んだことがこれからの看護職としての活動の基盤となり、また、培った友情は一生の宝になります。社会人として、看護職としての日々は、たくさんの困難に遭遇します。しかし、大丈夫です。皆さんには学んだ知識と技術があり、何より支えてくれる友達があります。学び舎と教員のことも時々でいいので思い出してみてください。一息つきたくなったら、いつでもいらしてください。待っています。

大学院生の皆さんは、大学院で学んだことを臨床実



践の現場に反映させる役目があります。臨床現場で生じている事象の捉え方や分析方法など、修士課程で学んだ知識や修士論文を完成させる過程で身につけたスキルを最大限に活用し、看護実践の質を向上させる活動を展開していただきたいと願っています。さらに学びを深めたくなったら、博士課程への進学を考えていただければ嬉しいです。待っています。

卒業生、修了生の皆さんの前途洋々の門出をお祝いいたします。

4年間を終えて

学部卒業生 大石 優介

本学では、赤十字の理念のもと、将来看護師として国内外の保健、医療、福祉の場面で活躍するための知識や技術を4年間かけて学びます。



専門科目の学習を通して、新しい知識や技術を習得する度に、一步ずつ看護師へと近づいていることを実感しました。中には理解に時間がかかることもありましたが、チューター制度を利用して先生方に質問したり、友人たちと協力して学習したりすることで理解を深めることができました。そして、臨地実習は最も自身を成長させてくれたように思います。赤十字の病院や地域の病院だけでなく、こども園や助産施設、介護保険福祉施設等で実習をさせていただき、仲間たちと共に、毎日患者様のことを考え、個別性のある看護とは何か、よりよい看護とは何か必死で考え、看護に必要な知識・技術・精神を学び、看護の奥深さと厳しさを実感することができました。そして、自分の行った看護ケアによって、患者様が喜んでくださったときの感動は忘れられません。

このように、本学では周囲のサポートのもと、先生や仲間と協力しながら、それぞれが思い描く看護師像に向け、看護とは何か自分なりの考えを深めていくことができると思います。今後、この4年間で得た知識、技術、精神を忘れず、医療者の一員として自己研鑽に努めてまいりたいと思います。

修士課程での学びを終えて

大学院修了生 黒田 朋代

私は身近で起こった喪失体験をきっかけに死生観について考えることが増え、人生の在り方を問い続けながら看護教員として働いていました。努力して学習時間を捻出し楽しく学ぶ看護学校の学生の姿を目の当たりにし、看護教育に役立てるために進学を決めました。



授業で行われるディスカッションでは、様々な物事の見方、考え方があることに改めて気づき、多様な価値観を学ぶ機会になりました。また、学生の力量を見極めながら助言する先生方の教育方法は、日常の教育活動のモデルになりました。その結果、自らの教育力や教育観が高まったのではないかと自負しています。

特別研究では、危機的状況から心が回復していく過程には何が重要なのかという漠然とした疑問からの出発でした。初歩的な段階から根気強く先生方にご指導いただき、手厚い支援のもとで取り組むことができました。研究に御協力いただいた方々をはじめ、多くの皆様の想いや支えによってまとめられた修士論文は、私の宝物です。この宝物を更に洗練し、学術論文として投稿することが今後の私の課題であり、より一層精進していきたいと考えています。

学びの過程において、困難に直面し心が折れそうになることもありましたが、院生の仲間、家族、先生方の支えによってレジリエンスを高め、無事に修了できました。支えてくださった皆様、そして何より、学生自身の力を信じて熱心にご指導くださいました先生方に深く感謝申し上げます。

日本赤十字豊田看護大学へようこそ！

学部長 村瀬 智子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。全国の看護大学の中から、本学を選んで入学して下さったこと、本当に嬉しく思います。

皆さんの将来の夢は何ですか。大学生活にどのような期待を持っていますか。

我が国は、平成から令和へと元号が新しくなりました。新しい時代の幕開けですね。

本学も、これまで先人が築いてきた赤十字の看護の伝統を踏まえ、新たな時代の大学創りを目指して、さまざまなことにチャレンジしています。たとえば、世界につながる赤十字の看護大学として、“地球に寄り添う看護”をキャッチコピーに、世界の医療・福祉・看護・救護の場で活躍できる看護専門職を育成するべく、カリキュラム改正に取り組んでいます。また、近隣の大学や高校、地域の諸機関と連携し、地域社会に開かれた大学創りも目指しています。

看護学は、サイエンスである「知識」とアートである「技」が統合された人間科学です。国や世代を超えて多くの人々と触れ合い、さまざまな経験にチャレンジする勇気をもって下さい。それらの経験は、豊かな

教養や社会性を身に着ける機会であると共に、人間として大きく成長できる機会にもなります。そして、その過程で倫理的感性や観察力、論理的思考力も培ってほしいと思います。

本学は自然に恵まれた閑静な地に在り、中部ブロックの赤十字病院や地域の病院をはじめとして実習施設も充実しています。

さあ、皆さん！夢の実現に向けてのスタートです。



真の看護師に

学部新入生 立石 留菜

「本当にありがとうね。」あの夏の日、汗ばんだ老夫婦の笑顔と共に伝えられたこの一言が看護師の道を志ざしていた私の心を後押ししてくれました。「人の役に立つ仕事に就きたい」という思いを看護師という職業で実現しようと思った私は、まず豪雨被害を受けた広島の実備町で、ボランティアとして参加することにしました。赤十字社の方々が各所で活躍されているのを、憧れの気持ちで眺めながら、炎天下の清掃作業を終え帰りの挨拶をする時に、その言葉をかけられました。この時の想いを大切にして、将来的には、院内だけではなく災害現場でも1人でも多くの被災者の方々に助けることのできる看護師になりたいと思います。その為には、「人道」を始めとする赤十字の7つの原則。私自身がこの原則を理解できた時こそが、真の看護師としての始まりだと考えます。その為にも、日々努力を重ねて歩んで行きます。

大学院博士課程への進学について

大学院新入生 石本 香好子

私は、修士課程修了後、大学院での学びを臨床に還元したいと思い、総合病院で17年働いています。その間、糖尿病看護認定看護師となり、主任・師長・副部長の職位に就き、自施設の看護職員が患者・家族の思いに寄り添った質の高い看護の提供ができるよう人材育成や環境整備に取り組んでいます。3年前に看護部の教育担当責任者になり、看護職の能力開発に向けて教育計画や教育プログラムの企画、運営をしています。しかし、研修成果の可視化、OJTとの連携が不十分であり、効果的・効率的な教育プログラムへの課題がありました。効果的な教育プログラムの開発を研究として取り組みたいと考え、研究生となりました。久しぶりのゼミへの参加や教授から研究指導を受ける中で、自分の研究方法の知識不足や研究手法の未熟さを痛感しました。これまで、認定看護師・看護管理者としての実践活動を学会で発表していましたが、実践報告にとどまり、看護実践の効果や課題について根拠に基づいた評価ができておらず、看護の向上に貢献できていませんでした。臨床で、研究や教育のリーダーとして活動するためには、自立して研究活動と研究指導ができるための研究能力が必要であると考え、博士課程への進学を決意しました。

博士課程は入学より修了の方が非常に難しいと聞いています。仕事や子育てとの両立に不安はありますが、家族と職場の理解が得られましたので、覚悟を決めて頑張りたいと思います。

2019年度入学試験結果

学部 入試区分	定員	志願者数	受験者数	正規合格者数	実質倍率	入学者数
一般入試	40	312 (24)	294 (21)	81 (3)	3.6	50 (3)
センター利用入試(前期A)	8	150 (17)	150 (17)	23 (2)	6.5	6 (0)
センター利用入試(前期B)	7	173 (13)	173 (13)	26 (0)	6.7	7 (1)
センター利用入試(後期)	3	27 (6)	23 (5)	10 (1)	2.3	6 (1)
高等学校長推薦入試	30	43 (2)	43 (2)	34 (2)	1.3	34 (2)
日赤中部各県支部長推薦入試	30	29 (2)	29 (2)	26 (1)	1.1	26 (1)
社会人特別選抜入試	2	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	1 (1)
計	120	735 (65)	713 (61)	201 (10)	3.5	130 (9)

学部 入試区分	定員	志願者数	受験者数	正規合格者数	実質倍率	入学者数	
大学院入試(修士課程)	前期	10	5 (0)	5 (0)	4 (0)	1.3	4 (0)
	後期		3 (0)	3 (0)	3 (0)	1.0	3 (0)
大学院入試(博士課程)	2	4 (0)	4 (0)	3 (0)	1.3	3 (0)	

※ () 内は男子学生数再掲。倍率は小数点以下第二位を四捨五入。
 大学院入試(博士課程)定員は北海道・秋田・広島・九州と本学合わせて計10名。
 平成31年度の本学定員は2名。

出前公開講座

出前講座「知って安心 認知症のこと」

本学では、2018年度より出前公開講座を企画しています。

豊田市地域保健課を通して、地域のニーズにあった内容を提供し、地域との連携をより円滑することを目的として行っています。

的として行っています。

第1回出前講座として、2019年1月22日に豊田市美里地区にて「集まれ！美里元気アップパワー」というテーマで行われた交流会のプログラムの一つとして行いました。本学の老年看護学 小林尚司教授が「知って安心 認知症のこと」というテーマで認知症の病態、認知機能低下と心理行動症状との関連性、認知症予防活動の効果について講演しました。参加された方は、熱心に聴いておられました。事前に豊田市美里地区の自主グループの活動を支えるヘルスサポートリーダー（豊田市が養成する健康づくりボランティア）の方と美里地区担当の保健師の方と打ち合わせを行い、よりよい内容とすることができました。今後も、地域のニーズにあった内容を提供していきたいと考えています。



災害救護演習Ⅱ

災害救護演習Ⅱに参加して

4年 大石 優介

災害救護演習Ⅱでは、大規模災害を想定した日本赤十字社の救護員研修に傷病者やその家族役として参加します。演習の開始前、傷病者役の学生に特殊メイクが施され、普段とは異なる仲間の姿に参加者たちの間



にも笑顔がみられました。しかし、訓練の開始と同時に会場内は張り詰めた空気に包まれ、救護を求める被災者の声や救護員による救護活動、新たな傷病者の受け入れなど、目まぐるしく変化する現場に息をのみました。私は傷病者役としてベッド上で処置の順番を待っていました。喧噪の中、救護員たちの声や足音が耳につき、「自分は大丈夫なのだろうか」、「助けてもらえるのだろうか」と不安や恐怖を抱きました。同時に、そのような状況下であっても懸命に救護活動に取り組む救護員の姿に頼もしさや尊敬の念を抱きました。私も将来、医療者の一員として、一人でも多くの人の不安や痛みを軽減できるようになりたいと決意を新たにする経験となりました。

※学年は参加当時の学年です

RCT☆LINK

考え方の違いを理解するとは

3年 廣地 摩樹

私は高校生の時に、東日本大震災の災害支援をさせてもらってから、将来災害救護に関わりたいと思うようになりました。そして、大学に入ってから学内学外様々な所で、災害について学んでいます。その中で、日々考え方の違いを理解することの大切さを感じています。基本的に一緒に活動する方は、毎日顔を合わせる気の合う仲間とは違います。学部も違えば学年も違い、住んでいる地域も違います。時には、すでに社会人として働いている方や医療関係者以外の方と一緒に活動することもあります。このように、立場が違う方々は何を優先に考えるか、何を大事とするかが異なるため活動がスムーズにいかないこともあります。例えば、よく医師は病気・ケガについて考えるが、看護師は人・ケアについて考えるといいます。そのような考えがどの職業、または個人によっても異なります。しかし、みんな災害時に「一人でも多くの人を助けたい」という思いは変わりません。そのため、平時からお互いのことを理解し、互いの妥協点見つけ、実際に被

災した時にスムーズに活動ができることが大切であると感じています。災害時は特に、医療関係者だけではなく多種多様な方々と連携をとることが必要になるため、大学生の間からこのような経験ができて良い成長に繋がっていると思います。これからも、多くの活動を通して多くの人と出会いたいです。



次回 RCT LINK 3年 田中 萌絵

総務大臣賞受賞について

豊田市消防団学生機能別団員の一員として

3年 面高 亜美

私は1年生のころから災害支援サークルDMACに入っており、その中で、豊田市消防団学生機能別団員の活動に興味を持ち、2年生から活動を始めました。

2018年12月20日、豊田市消防団が学生団員数の増加数が多い消防団として、総務大臣から感謝状が贈呈

されました。この授賞式に学生機能別として活動している豊田市の4大学の中で、本校が選ばれ、参加させていただきました。

授賞式は総務省で行われ、豊田市消防団の藤村団長と、消防本部の方と3名で出席し、石田総務大臣から直接



授賞状を受け取り、とても緊張しましたが、2度とない貴重な体験をさせていただきました。私が授賞式に参加できたのは、先輩方が活動を築いてくださったおかげなので先輩方に感謝し、そして、私たちも後輩に消防団の活動をつなげていきたいです。

これからも豊田市消防団学生機能別団員という自覚を持ち、災害や防災の知識を深め、豊田市に貢献できるよう、活動していきたいです。

サークル紹介

つばめ隊

4年 伊藤 沙月

私はつばめ隊サークル長を務めています。つばめ隊とは、高齢者の嚥下機能(飲みこみの機能)強化を目的とした運動「つばめ体操」を地域の方々に普及するために結成されたサークルです。月に1~2回ほど大学近くの宮口一色地区に出向き、地域の方々と体操をしたり、嚥下機能の計測を行っています。活動の内容を聞くと、難しく聞こえるかもしれませんが、実際には地域の方々と楽しく活動をしています。活動を通して学生間での仲が深まるだけでなく、教員から、嚥下機能に関する知識や看護技術について学ぶことが多くあります。また、地域での活動を通して実際の地域での生活の状況や地域の方々との関わり方について多くのことを学ぶことができます。昨年度は障がい者支援施設にも訪問、活動させていただきました。当日は緊張から上手くできないことも多くありましたが、利用者さんをはじめ、スタッフの方の温かい支えによりなんとか活動ができ、大学内

ではなかなかできない貴重な経験となりました。

まだまだサークル自体ができたばかりで活動自体は少ないですし、慣れないことも多くうまくいかないことも多くありますが、教員や地域の方々に支えられて一生懸命活動を行っています。



Information

2019年度公開講座一覧

■一般向け公開講座

領域	題名	日時	内容
精神	第3回こころの健康づくりシンポジウム	12月14日(土) 13:00~15:00	地球を一つにする「いのちの歌」の活動や、ユーモアを活用した病の癒しのプロセスを皆さんと共有しながら、日々のストレスで疲れたところの癒し方をみつけることができればと思います。
成人	食事と味覚	2020年3月13日(金) 10:00~12:00	食生活から健康づくりに関連するテーマを取り上げ、食生活について一緒に考えていきます。

■専門職向け研修会

題名	日時	講師名
幼稚園・保育所に滞在する子どもが病気・ケガで医療機関を受診するまでの対処	8月24日(土) 13:00~16:00	小児看護学 教授 大西 文子 准教授 岡田 摩理 助教 遠藤 幸子 助手 飯田 大輔
もう一度学びたい「看護過程」シリーズ① アセスメント	9月28日(土) 10:00~12:00	基礎看護学 講師 竹内 貴子 准教授 中島 佳緒里 教授 山田 聡子
もう一度学びたい「看護過程」シリーズ② 看護診断から看護計画	10月5日(土) 10:00~12:00	
臨地実習指導のコツ~理想の臨地実習指導者を目指そう!~	10月26日(土) 10:00~12:00 13:00~14:00	基礎看護学 教授 山田 聡子
乳腺炎について	2020年2月15日(土) 13:30~15:00	母性看護学 准教授 長田 知恵子
ストレングスモデルの実践的展開を目指そう!	2020年2月16日(日) 13:00~16:00	精神看護学 教授 村瀬 智子
回想法	2020年3月11日(水) 10:00~	老年看護学 助教 福田 裕一

オープンキャンパス

○オープンキャンパス

開催日：①2019年7月20日(土) ②2019年8月17日(土)
両日とも10:00~15:00

申込方法：ホームページの申込フォームまたは企画・地域交流課(TEL 0565-36-5228)まで

令和元年度新任教員

教授	松浦 正子	看護管理学	講師	藤井 愛海	赤十字・災害看護学
准教授	南谷 志野	看護管理学	助教	田口 栄子	成人看護学
准教授	今福 恵子	在宅看護学	助教	河村 諒	成人看護学
講師	栩川 綾子	成人看護学	助手	高下 翔	基礎看護学

令和元年度新任職員

総務課	安井 康介
経理課	櫛田 堅二
学務課	賀茂 綾子

編集 後記

大学の周囲を取り囲む森の木々の様相が、葉を落とした冬の景色から新緑を得た風景となり、そして徐々に深い緑へと変わってきました。また、午刻の太陽が夏に向け段々と高度をあげるにつれ、貯水池の水の色も明るさを増し、季節の移ろいを感じさせてくれます。

1年生の皆さんは入学から1か月が経ち、大学に慣れてきたころかと思います。進級した皆さんも、有意義な学生生活を過ごされることを期待しています。

「いとすぎの丘」Vol.29をお届けします。本号では、卒業式、入学式の様子や、災害救護演習、タイ赤十字看護大学との交流などについて紹介しています。ご執筆をお引き受けいただきました皆様には感謝申し上げます。これからも、大学の取り組みや活動などを発信していきます。皆様からのご投稿もお待ちしております。

いとすぎの丘 Vol.29

発行日/2019年5月

編集・発行/日本赤十字豊田看護大学

入試・広報委員会、企画・地域交流課

〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33

TEL 0565-36-5228

FAX 0565-36-5256

E-Mail kikaku-ka@rctoyota.ac.jp

HP <http://www.rctoyota.ac.jp/>